

# 令和7年度 学校評価報告書（自己評価書・学校関係者評価書）

令和8年2月20日作成

中期目標	重点努力目標（評価項目）	自己評価	総合評価	達成状況と成果	関係者評価	学校関係者の意見・要望	今後の改善方策 次年度への課題 (★学校関係者評価を受けて)
「一歩踏み出す生徒」の育成、「自分を高める力」と「仲間と関わる力」を育む教育の推進	1 「目標に向かって自らの道を自分らしく歩むことができる生徒」を育てる	B	A	①協働学習力を入れ、友に学び合う場の充実に努めてきた。【経営1～3】【問1～3】	A	・自主的に行動できる生徒が育つように教育活動ができていると思う。ICT機器を効果的に活用したい。	・生徒たちが「学びたい」と思えるような問題解決的な単元を構想し、協働的な学びをとおして、個の力を伸ばしていけるような授業実践を行う。 ・ICT機器を活用した授業実践を積み重ねる。
	①問題解決的な生活と学習を通して「自己を高める力」「仲間と関わる力」を伸ばす。			②定期的な部会を行い、部会から示された事柄について共通理解を図ることができた。【経営24】			
	②「目ざす生徒像」の実現に向け、4部会が方針を示し、具体的なたてを講じていく。			③カリキュラム・マネジメントを意識して取り組むことができた。【経営44】			
	2 「あたたかく見守り、そっと背中を押す教師」を育てる	A	A	①②「一歩踏み出す生徒」の姿をあたたかく見守り、次への意欲が高まるように、生徒主体の活動を支援できた。【問24】【問25】	A	・生徒が意欲をもって活動できるよう、先生たちが見守っていると思う。	・「一歩踏み出す生徒」を育てていけるよう、見守り、必要な支援を行っていく。 ・OJTを活用し、教職員の力量向上を図る。
	①「信じて・任せて・見守る」スタンスで生徒に寄り添い、生徒と向き合う。			③公開授業や現職研修、OJTをとおして、授業力や学級経営力の向上を図ることができた。【経営28】			
	②「認めて・ほめて・伸ばす」ことを大切に、生徒の「よさ」に着目して背中を押す。			③現研の活動や自主的な研修をとおして、「教師力向上」と「感性磨き」を図る。			
	3 生徒の育ちを見通した「魅力あふれる教育活動」を展開する	A	A	①互いの意見を尊重し合う「お話しタイム」を実施することで、安心感のある学級づくりに努めた。【問20】	A	・生徒が勉強以外の部分でも学び、育つ行事を行うことができていると思う。	・お話しタイムの活動を見直し、継続して取り組んでいけるようにする。 ・小中一貫教育の計画を見直し、可能なところから9か年を見通した活動をすすめていく。
	①お話しタイムを取り入れ、生徒が安心を感じられる学級づくりに取り組む。			②行事において、かかわりを大切にした生徒主体の活動が展開できた。【問14～16】			
	②『南丸祭（体育・文化）』を柱に、生徒の手による学級・学年・学校づくりに取り組む。			③小中の情報交換を密にしてきた。【経営22・42】			
	③「つなぐ」「いかす」視点で、「小中9か年」を貫いた体制づくりをすすめていく。	B					
	4 生徒と教師が「育つ組織」・教職員にとって「働きやすい環境」を整備する。	B	B	①③4部会により提案された内容について、意見交換や共通理解を図りながら実践を進めてきた。【経営26】【経営25】	A	・教職員の働き方改革と生徒の育ちは相反する部分もあると思う。生徒が達成感を失わない工夫をしていけるとよい。	・「一歩踏み出す生徒」を育てるといふ目標を見失うことなく、生徒の育ちと教職員の働き方改革の両立を旨として、さまざまな活動についてPDCAサイクルで見直していく。
	①「島長会」「研究部会」「学年団」をはじめとする「チーム」で学校・学年運営にあたる。			③教育活動や業務内容をPDCAサイクルで見直し、業務の効率化を図った。昨年度よりも在校時間が縮減された。【経営31・43】			
②「報告、連絡、相談、確認」を徹底させ、組織力と対応力を高める。							
③タイムマネジメントを意識し、「業務の効率化」「組織の強化」「働き方改革」を図る。	B						
5 家庭・地域や小学校との連携を深め「信頼される学校づくり」を推進する	B	A	①③小中が連携して行う挨拶運動や学校公開日を実施することができた。地域のかたをエールームの講師としてお招きし、協働して教育活動を展開することができた。【経営42】【経営20】	A	・地域と家庭の連携はできていると思う。お知らせ等のプリントは、メール配信してもらえると、親の手元に届くようになると思う。	・小中連携活動や地域にかかわる活動を継続・発展していくことで、地域の一員としての意識を今後も育てていく。取り組みについて積極的に発信していく。	
①連携委員会の具体的なたてを通して、家庭、関係機関との「つながり」を強化する。			②学年通信や学校新聞により、生徒の活動の様子を発信することができた。【経営21】【問27】				
②学校や生徒の情報を積極的に発信するとともに、生徒による地域貢献活動を継続する。							
③南部校区3校（合同）学校公開日の設置、「エールーム」の開放や校外活動、小とのあいさつ運動など、保護者や地域に開かれた学校を創る。	A						

【自己評価 A：十分に達成されている B：概ね達成されている C：あまり達成されていない D：ほとんど達成されていない】

【総合評価 自己評価をもとに 上記のA・B・C・Dで評価】

【関係者評価 A：適切である B：概ね適切である C：あまり適切ではない D：適切とは言えない】